

フレイルにおける意味のある作業の満足度と幸福感の関連性

○津餃子（OT）¹⁾・松阪牛子（Dr）¹⁾・鈴鹿一朗（PT）²⁾伊勢太郎²⁾

1) △△△病院 リハビリテーション科

2) △△△大学 △△△学部 リハビリテーション学科

キーワード:COPM, 満足度, 幸福感

【はじめに】

作業療法では、意味のある作業に焦点を当てた治療を提供する。先行研究では、義務的活動（無意味な活動）と生活満足度は負の相関を示すことが明らかになっている（三重，20xx）。一方で、上記の関連は地域の健康高齢者における報告に留まり、地域で暮らす虚弱な者（フレイル）において意味のある活動の満足度と幸福感の関連性は不明瞭である。したがって、本研究は、地域で暮らすフレイルにおける意味のある作業の満足度と幸福感の関連性を明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象は、2024年4月から2025年3月の間に、三重県内の各公民館で実施した健診事業に参加し、基本チェックリストにおいてフレイルと判定された者56名とした。フレイルの評価は基本チェックリストを用い、8点以上をフレイルとした。意味のある作業の満足度はカナダ作業遂行測定（COPM）、幸福度は、『現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点すると、何点くらいになると思いますか。』という10点法（11段階）でおこなった。統計解析はスピアマンの順位相関係数でおこない、統計学的有意水準は5%とした。本研究にあたって、対象者に十分な説明をおこない、書面で同意を得た上で実施した。

【評価】

COPMのセルフケアおよびレジャーの満足度と幸福感の間に有意な相関関係が認められた（セルフケア： $\rho=0.411$ 、 $P=0.042$ 、レジャー： $\rho=0.523$ 、 $P=0.021$ ）。生産活動は幸福感との間に相関関係は認めなかった。

【考察】

先行研究では地域の健康高齢者を対象に、レジャーと幸福感の間に関連を認めていた（三重ら，20△△）。一方、本研究では、COPMのセルフケアおよびレジャーの満足度と幸福感の間に相関を認めた。これは対象者層の違いが影響していた可能性がある。フレイルであるために、セルフケアに対して満足にできないことが、セルフケアの満足度が幸福感と関連したと考えられる。

【結論】

本研究ではフレイルにおける意味のある作業の満足度と幸福感の関連性を検討した結果、セルフケアおよびレジャー活動が幸福感との関連性を認めた。今後、フレイルの幸福感を高めるためには、意味のある活動のなかでも、特にセルフケアとレジャー活動に焦点を当てる必要がある。